

## 田川市ごみ減量化・資源化推進検討委員会（第1回）

日 時：平成 25 年 11 月 29 日（金） 13:30～15:20

場 所：田川市役所 第二委員会室

出席者：下表のとおり

市長		伊藤 信勝
委員 (◎：会長、 ○：副会長)	◎福岡県立大学医学博士	久永 明
	○田川ふるさと川づくり交流会	村岡 洋
	田川市区長会	吉武 精稔（欠席）
	田川市区長会	伊藤 一樹
	田川市区長会	兒島 孝司（欠席）
	田川市区長会	工藤 徳男
	田川市区長会	栗本 康雄
	田川市区長会	進 邦義
	田川市区長会	松岡 勝博
	田川市区長会	植田 靖夫
	田川市区長会	岩崎 太郎（欠席）
	田川白鳥団地工業会	日巻 敏幸
	田川白鳥団地工業会	糸瀬 サハラ
	女性団体等	工藤 志津香
	女性団体等	手島 三恵
	女性団体等	矢野 良重
田川市市民生活部長	柳井 妙子	
事務局	田川市市民生活部新ごみ処理施設建設室 水上室長、矢野企画官、福田補佐、大久保 田川市市民生活部環境対策課 平野課長、山崎補佐、吉田、藤井	

### 議事要旨

#### 1. 開会

【事務局】

- ・開会

#### 2. 市長挨拶

【市長】

- ・挨拶

#### 3. 委員紹介および委嘱辞令交付

【事務局】

- ・出席者紹介
- ・委員の委嘱状は机の上に置いているので、辞令交付は省略させていただく。

#### 4. 会長及び副会長の互選

##### 【事務局】

- ・会長、副会長の互選について意見を求める。

##### 【委員】

- ・事務局案はあるか。

##### 【事務局】

- ・事務局案として、会長に久永委員、副会長に村岡委員を提案する。

##### 【各委員】

- ・異議なし。

##### 【事務局】

- ・久永委員、村岡委員にそれぞれ会長、副会長をお願いする。
- ・久永会長には、会長席へ移動していただき、以後の議事の進行をお願いする。

ー久永会長が会長席へ移動ー

##### 【会長】

- ・挨拶

ー市長は公務につき退席ー

#### 5. 確認事項

##### 【事務局】

- ・資料1（田川市ごみ減量化・資源化推進検討委員会設置要綱）について説明。

##### 【委員】

- ・要綱では、委員数が18人以内とあるが、委員は17人であり、何か意味があるのか。

##### 【事務局】

- ・特に意味はない。増えるという可能性もある。

##### 【事務局】

- ・資料2（田川市ごみ減量化・資源化推進検討委員会開催スケジュール案）について説明。
- ・資料3（田川市のごみ処理の現状について）説明。
  - ・新ごみ処理施設は、平成30年度からの稼働を目指す。

##### 【会長】

- ・資料の復習（資料3）
- ・不燃ごみの推移について、H20とH21の期間の急上昇の理由について教えてほしい。

##### 【事務局】

- ・19年度にペットボトルの再分別が行われた。それに伴いごみ処理手数料（ごみ袋代）を若干下げ、大型ごみの手数を若干値上げした経緯がある。その結果、大型ごみが焼却施設に直接搬入で出されるようになった可能性がある。

**【委員】**

- ・個人で大型ごみを焼却施設に運んで行ったからといって、不燃ごみの計量データは変わらないのではないか。

**【事務局】**

- ・大型ごみの手数料の値上げの結果、重量・大きさが価格が変わるようになり、大型ごみは焼却施設に直接持ち込んだほうが安くなる場合がある。ごみ処理施設に持ち込まれた大型ごみは、大型ごみでなく不燃ごみとして処理される。

**【委員】**

- ・ごみを焼却場でどれくらい出したかというのは、計量する際の秤量で計算するのか。

**【事務局】**

- ・清掃センターで受け付けるときに個人で搬入されたものは大型ごみを不燃ごみとして受け付け、そのうちの不燃ごみ量の直接搬入量が増えたということである。

**【委員】**

- ・平成30年度までこのメンバーでいくのか。充て職の関係があるので今後どうなるのか。
- ・小型家電製品について、市ではどれだけの量が回収されたのか。資料があれば提供して欲しい。

**【会長】**

- ・市で回収を行った小型家電製品の資料については、次回事務局に用意をお願いします。

**【事務局】**

- ・委員の任期については、事務局としては30年度まで継続していきたいと考えているが、充て職の関係がある。その場合は、委員を引き継いだ違う宛て職の職員を委任したいと思っている。その時はまた協議をさせていただきたい。

**【委員】**

- ・総排出量の実績について、総排出量の中に資源ごみ・資源化になったごみは含まれているのか。

**【事務局】**

- ・資源化になったごみは含まれている。

**【委員】**

- ・大体で結構だが、どれだけの割合で資源ごみがあるのか。

**【事務局】**

- ・缶・びん・ペットボトルについては残渣があるため約9割、不燃ごみについても鉄・アルミ等は不燃ごみの中から抜き出し、再資源化工場に引き渡している。全体の比率について、資源化率は重量比率で約1割である。

**【委員】**

- ・資源になるごみは、ごみ減量化の対象としてはあまり考えなくてよいということでもいいのか。

**【事務局】**

- ・その通りである。現在分別している品目については継続して行い、さらに再資源化できるものは焼却せずに行っていきたいと考えている。

**【委員】**

- ・田川市は、分別する種類はどれだけの種類の分別がふさわしいと考えているか。
- ・市が計画している新ごみ処理施設を作る上ではどれだけの分別がふさわしいと考えているか。

**【事務局】**

- ・資源化するうえでは分別区分をより多くするのが望ましいと思うが、市民の協力・手間・コストもより多くかかる。そのことを踏まえ、具体的に何分別が一番田川市にとってふさわしいかというのは、今から議論していく中で方向性を見出していくしかないのではないかと考えている。
- ・まだ新ごみ処理施設に関しては具体的な分別の種類については決まっていない。ごみの将来的な推計量や具体的な施設の中身についての検討は新ごみ処理施設整備等検討委員会の中でこれから行っていく。

**【委員】**

- ・分別についての詳しい内容については2回目以降の検討会で論議するということでよろしいか。

**【事務局】**

- ・その通りである。今回は現状認識についてが主題である。

**【委員】**

- ・ごみ減量化・資源化推進委員会と新ごみ処理施設整備等検討委員会の意見のすりあわせはどのようにするのか。
- ・ごみの組成データ、ごみを分別した際のコストについての資料が欲しい。
- ・ごみ焼却施設への視察を行ってみてはどうだろうか。

**【会長】**

- ・ごみの場合大枠のデータは可能であるがあとは調査という形になる。資料があるかどうかは事務局が答えるが、数字上での詳しいデータは現状の事務局では厳しいことを理解していただきたい。
- ・見学については次回以降のスケジュールにて行うことはやぶさかではない。

**【事務局】**

- ・新ごみ処理施設整備等検討委員会とごみ資源化・減量委員会とのすり合わせについては、両委員会で意見報告を行っていく。
- ・ごみの組成のデータに関しては次回用意する。分別による経費のデータに関してはしっかり計算したものを用意したい。
- ・視察については日程調整等を行い、検討を行う。

**【事務局】**

- ・補足になるが、今回は一回目の会議であり資料は本日配布をしたが、次回以降については事前に郵送で資料配布をし、会議に臨みたい。

**【委員】**

- ・次回委員会は3月の具体的に何日になるのか。

**【会長】**

- ・議論後に〇日はどうか、という提案をしていただければと思う。

**【委員】**

- ・現在のデータは家庭等から正式にごみ焼却まで出されたものであるが、不法投棄されているごみはデータには含まれていない。仮に不法投棄されたごみが焼却上にすべて運び込まれた場合ものすごい量になるかと思う。計算できるのであれば、その場合の資料が欲しい。

**【事務局】**

- ・一般家庭以外から出るごみを環境対策課では「一時ごみ」と呼び、そのデータはとっている。回収された一時ごみは、平成24年度の時点では不燃ごみが約3.7t、可燃ごみが約256tである。

**【委員】**

- ・ごみの減量・資源について話し合う場である、この場からペットボトルをできる限り使わないスタイルに変えていくよう提案をしたいが、どうだろうか。

**【委員】**

- ・賛成である。

**【委員】**

- ・意識を変えることが大事である。

**【委員】**

- ・可燃ごみ袋に可燃ごみ以外のごみが含まれて出されているものに関しては、どうしているのか。

**【事務局】**

- ・収集時、ごみ袋に「違反シール」を貼り、袋を捨てられていた場所の近くに置いている。また、該当するごみのみを回収して、袋と該当しないごみのみを置いている。

**【委員】**

- ・可燃ごみ袋の中の見えない位置に燃えないゴミなどが隠されているごみ袋に関してはどうしているのか、またどれほどの量なのか。

**【事務局】**

- ・焼却した後に焼却残渣になっている。量についてはデータがまだないので、データがあれば提示する。

**【会長】**

- ・糸瀬委員の提案について、ペットボトルは本委員会ではやめにしたい。その代わりにポットと湯呑を事務局で揃えるため、各自で注いで持っていくという形にしたいがよろしいか。

**【全員】**

- ・了解した。

**【委員】**

- ・一規格のごみ収集箱だけでは不便な点があるため、3種類ほどに増やすことはできないか。

**【事務局】**

- ・メーカーと相談をする。

## 6. その他

**【会長】**

- ・次回については、事務局では3月という説明をしている。第2回目会議の議題は基本計画の経過報告をするという第1案か、先進地視察を行う第2案か、どちらがよろしいか。

**【委員】**

- ・視察を行ったほうがよいと思う。また、視察に備えて他の自治体で行っている減量化への取り組みについての資料を頂きたい。

**【委員】**

- ・他でやっているところの資料をもらいたい。糸島など、たくさん助成しているところもある。

**【会長】**

- ・それでは、次回先進地施設を行うということでよろしいか。それまでに要望に出た資料ができれば、それを移動中に説明をする、ということでよろしいか。

**【委員】**

- ・了解した。

**【会長】**

- ・次回の時期として、事務局は3月を予定しているのか。

**【事務局】**

- ・3月に限定ということではない。2月から3月までの期間で日程を決めてもらえればと思う。視察に行く場合も資料を調査しておく、またバスも借りることも可能である。視察と会議というやり方も田川市から近くの施設に行くのであれば可能である。遠方であれば、その日は視察だけで終わるようになるかと思う。

**【会長】**

- ・議会が3月後半にあると思うが、それより前が望ましいか。

**【事務局】**

- ・その通りである。

**【会長】**

- ・今のところ3月の上旬の予定であるが、事務局より具体的に日付を提案してもらえないか。

**【事務局】**

- ・会長の日程の都合もあるかと思うが、会長はいつが望ましいか。

**【会長】**

- ・日程は第一案と第二案の2案を用意したい。3月3日から7日までの間であれば大丈夫である。午後から、午後に行ける範囲内で福岡県内の先進地視察を行いたい、よろしいか。

**【委員・事務局】**

- ・了解した。

**【会長】**

- ・それでは、3月の初週（3日～7日）の間で都合が悪い日を挙げて頂きたい。

**【委員】**

- ・6日の木曜日は避けて頂きたい。

**【会長】**

- ・了解した。他に意見がないのであれば6日以外を候補日としてよろしいか。

**【委員・事務局】**

- ・了解した。

**【会長】**

- ・それでは、候補を3日、4日、5日、7日の中から2つに絞りたい。第一候補日は月曜日でもよろしいか。事務局は3月3日で大丈夫か。

**【事務局】**

- ・大丈夫である。

**【会長】**

- ・それでは、第一候補日は3月3日の午後とする。第二候補日はいつとするか。

**【事務局】**

- ・第二候補は3月の中旬よりも2月の終盤を希望する。

**【会長】**

- ・2月であれば26日、27日、28日ではいかがだろうか。

**【委員】**

・3月の3日から7日までの週の方が望ましいと思う。3月の7日の金曜日はどうだろうか。

**【事務局】**

・大丈夫である。

**【会長】**

・それでは、第二候補日は3月7日でよろしいか。

**【委員・事務局】**

・了解した。

**【委員】**

・視察する先進地はリサイクル施設などの減量化・資源化の進んだ地域の取り組みを見に行くのか。焼却施設の機械を視察しても仕方ないと思うのだが。

**【委員】**

・話を挟んで申し訳ないが、今の焼却施設はリサイクル・分別も含んだ施設となっている。分別を見るのであれば焼却施設でよいと思う。

**【委員】**

・我々が考えるべきなのはいかにごみの排出量を減らすか、住民に周知してもらい仕組みを考えるべきではないだろうか。

**【委員】**

・私もクリーンヒル宝満などの施設に見学に行き、分別の現場を見た。だが、この議会で考えるべきは、いかに住民が減量化に取り組んでいくか、仕組みを考える場ではないだろうか。

**【会長】**

・了解した。両方とも必要であると思う。ただし、分別の現場を見るときとなると非常に時間が限られる。

**【委員】**

・住民がごみを出している時間以外でも、分別化について取り組んでいる組織は、あるのではないかと。地域のごみ集積所が実際にどうやっているのか、という実際の仕組みの部分の部分を学んだほうがいいのではないかと。その結果、仕組みを考えることにつながるのではないかと。

**【会長】**

・現場視察に行っても、会議室で説明を受ける、というのが中心になってくるのが往々としてあると思う。民間であれば、こちらの時間に合わせてくれるかもしれないが、行政同士である場合は行う内容は大体決まっている。また、実際に現場を見たいとなると、こちらが時間を合わせなければならない。

**【委員】**

・現場でごみを出しているのを目撃するのではなく、実際に資源化に取り組んでいる施設などに話を聞きに行くことのほうが、我々の考えていく上での手がかりになるのではないかと。

**【会長】**

・委員が見聞きしてきた中で、非常に進んだ考えであることは理解できた。ただし、全員が知識を共有するための勉強会という意味では、ある部分は正しいと思うが、すべてが次回できるかといわれるとそうではない。

**【委員】**

・次回に限らず、視察はどこで行うのかを確認したかっただけである。

**【会長】**

- ・今の議論も受けながら、視察先は事務局が検討する。

**【委員】**

- ・私は毎年、県内の焼却施設へ視察に行っている。焼却施設は行政が担当しているところであるため、行政が資料を揃えて、詳細の説明は必ず行われている。だから、見学の場合は場所を見るだけでなく、そのあとに工場内を見学すれば、職員の詳しい説明も受けられる。

**【会長】**

- ・あとは、委員の意見をまとめながら、事務局で決めて頂く。できる限り意見に沿えるものを 1.2 箇所選定してもらえればと思う。
- ・次回は視察を行う。第一候補は 3/3 の午後、第二候補は 3/7 の午後である。これらの日付でうまくいかない場合はまた相談を行う、ということをお願いをする。

**7. 閉会**

**【会長】**

- ・閉会宣言

◎次回日程は 3/3(月)、もしくは 3/7(金)の午後の予定。

以上